

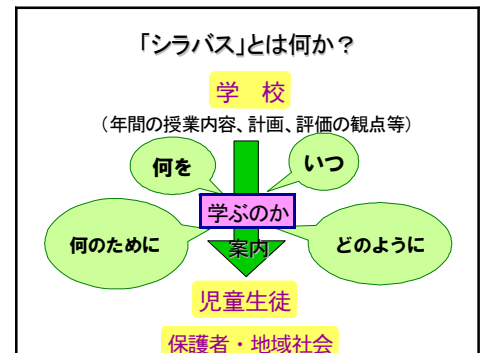
## シラバスと学習意欲の向上

岩国市立灘中学校

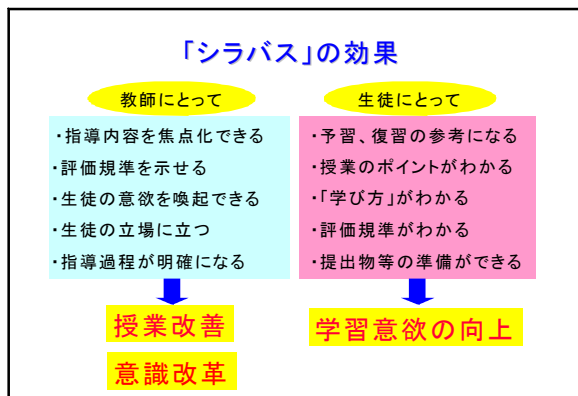
### シラバスとは

シラバス (syllabus) は、もともとギリシア語で、和訳する場合は「教授 (講義) 要目」とするのが一般的である。大学では従来から履修する科目の必要な要件を学生に示すものとして作成されていたが、最近では高等学校や中学校でも作成するところが増えている。

学習者にとって、シラバスは「学びのナビゲーター」として学ぶ意欲を高め、主体的な学びに導く「学習の手びき」といえる。また、教師相互の授業内容の公開や調整、さらには保護者や地域社会への情報提示方法の一つとして、開かれた学校づくりに活用することができる。



### 本校のとらえるシラバスとは



本校では、生徒に学習の目標をもたせ、自ら学ぶ意欲を喚起させるために、シラバスの作成と活用の仕方を研究している。生徒にとってシラバスは学習の見通しが立つため、準備物や提出物への対応が余裕をもってできる。

また、既習事項との関連や学び方のアドバイスは、授業を充実させるだけでなく、予習や復習のきっかけとなり、家庭学習を定着させることにつながるというメリットがある。

さらに、教師にとっては、生徒の立場に立って指導案を練り直すことになり、指導内容を焦点化し、どのように指導していくのかを確認することにもなる。あらかじめ評価規準を示すことで、生徒の目標も明確になり、学ぶ意欲を高め、分かりやすい授業の実現に結び付くと考えている。

### 本校のシラバスの形式と活用の仕方

シラバスが学習への意欲を高める手びきとなるように、次ページに示している基本形式により作成している。5教科は単元ごと、実技教科は学期ごとの作成を原則としているが、教材 (題材) ごとに作成する場合もある。

ほとんどの教科で自己評価の欄を設けており、生徒は単元や教材の学習終了時に、自己評価を記入することで学習を振り返っている。教師はシラバスを作成することで生徒の視点による指導計画を立て、それに従って授業を実践している。このように、シラバスの自己評価や生徒による授業評価は、教師自らの授業の振り返りや授業改善プランの作成、そして次のシラバスに生かすというマネジメント・サイクル (P D C A) による授業改善にもなっている。

No.3 3年 理科 学習の予定(シラバス)		3年 組 番 名前				
単元名【物質と化学反応の利用】「1節 酸化と還元」「2節 化学変化とエネルギー」						
月	教材・題材名	時数	学習のねらい	自己評価	学び方のアドバイス	備考(提出物、テストの予定等)
9	1節 酸化と還元	2	1. 物質が燃える反応を調べよう		次のことを答えることができるようになる！ Q 教P61の下ペットボトルの中にあつた空気の体積が減つたのはなぜ？ Q 教P62かわいたピーカーを炎にかざすと何がつく？ Q 有機物が燃焼するとき、何と何ができる？ Q 酸素のやりとりという視点から、酸化と還元の見え方が説明できるかな？	・小テスト【ポイント整理50】 ・【シラバス】 ・プリント【化学式と化学反応式の確認】 ・小テスト【化学式と化学反応式No.1】 ・小テスト【化学式と化学反応式No.2】
	2. 酸化物から金属をとり出そう		・酸化銅の還元の実験を行い、物質から( )をとり去る化学変化は還元であることを理解する。			
	2節 化学変化とエネルギー	2	1. 化学変化で熱エネルギーをとり出そう		○ わたしたちの生活は、化学変化が起きる際に起こるどんなエネルギーによって支えられているだろうか？考えてみよう。 	・レポート 実験2【化学変化で熱をとり出す】
	2. 化学変化で電気エネルギーをとり出そう		・化学変化には電気のエネルギーをとり出すことができるものがあることを知る。			
	まとめ・章末問題	1			・水溶液と( )種類の金属によって電流をとり出せる。	・【ファイル チェック表】 ・ノートP28~39を完成させましょう。

“自己評価” A:できた B:どちらかといえばできた C:どちらかといえばできなかった D:できなかった



各教科で様々な工夫が行われている。例えば、理科では授業前に実験結果が分かると興味・関心が薄れるため、学習の要点となる用語を空欄にし、学習終了時にその欄に記入させることにより、学習のポイントを確認させるようにしている。また、国語科ではシラバスの裏に漢字テストの問題を印刷しておき、生徒が自主的に学習できるようにしている。

生徒の意識を高めるために、各教室に「シラバス掲示板」を設けたが、これは生徒が学習全般への意識を高めるとともに、教師が他教科のシラバスを見て内容を参考にしたり、担任がクラスの学習状況をつかんだりするためにも役立っている。



### 成果と課題

シラバスに対する生徒の反応はおおむね良好で、「学習内容が分かるので予習がしやすい」「学び方のアドバイスがあるので取り組みやすい」「どこに気を付けて授業を聞けばよいか分かりやすい」「自分の苦手な項目が分かる」「反省が細かくできる」「テスト問題を予想して勉強できた」など、様々な面から活用していることが分かる。シラバスは、生徒に学習への主体的な取組をもたらしているといえる。

教師は、シラバスを作成する過程で指導内容と指導過程を明確に意識し、整理できることが一番の効果と感じている。シラバスを作成することは、教師の「指導」という視点から生徒の「学習」という視点への転換になり、生徒の視点に立った授業づくりを進めることにつながっている。

また、あまり利用しないという生徒の理由は「シラバスを見ても、活用の仕方が分からない」というものであった。利用する者とならない者が二分化する傾向もあるので、利用の仕方を具体的に指導し、単元や教材の学習終了時にシラバスを使って学習事項を確認する時間をとるなど、きめ細かな指導が必要である。